

VOICE

お客様の声

『猫風邪の予防に』

うちの猫は季節の変わり目になると風邪をひきやすく、一度風邪を引くと長期間鼻水と涙目がひどくなってしまいます。「治ったかな?」と思っても、また風邪を繰り返すことがよくあるので、しょっちゅう病院に行くようになり、そのせいか極度の病院嫌いになってしまいました。病院に行くのがストレスになっているみたいだったので、猫が風邪を引かないようにいろいろ調べて私なりに試してみました。しかし、うちの猫は免疫力が低いのか、気を付けていてもすぐ風邪を引いてしまうので、どうやったら免疫力が上がるのか悩んでいました。

風邪のたびに抗生物質を与え続けるのも良くないので、風邪や鼻水・涙目に効果がありそうなサプリメントをインターネットで探していたところ、「バランスアルファ」に出会いました。「バランスアルファ」は、天然の素材だけを使った無添加のサプリメントですが、猫が好むような味や匂いがついていないので、警戒心の強いうちの猫がちゃんと飲んでくれるかどうか心配でした。しかし、嫌がることもなくそのまま飲んでくれました。不思議なことに水よりもバランスアルファが飲みやすいのか、与えたとすぐに飲んでくれるので、とても助かっています。毎日飲ませているうちに、鼻水・涙目はいつの間にか止まり、以前より風邪を引きにくくなった気がします。バランスアルファと出会って本当に良かったです。同じ症状の猫ちゃんにおすすめしたいサプリメントです。

(神奈川県 20代 A.K様)



飲用量の目安

病気や症状改善が目的の場合

体重 1kgにつき 1mlを
1日2~3回

健康維持が目的の場合

体重 1kgにつき 1mlを
1日1回

※左記の飲用量、飲回回数より多く与えても害はありません。バランスアルファをペットに飲ませている飼い主様のお話によると、病気や症状改善が目的の場合は、多めに与えた方がバランスアルファの効果を早い時期に実感できることが多いようです。

※ペットがそのままでは飲まない場合は、飲み水(塩素の入った水道水は避けて下さい)に加えるか、ペットフードに混ぜて与えても効果効能は変わりません。

※バランスアルファはどんな薬と併用しても副作用はありませんのでご安心下さい。(注意: 60度以上に加熱することは避けて下さい。)

ペットのすこやかな毎日のために。

無料サンプルをお試し頂けます

☎ お電話 📠 FAX

☎0120-76-5812

9時~17時 土日祝休
050からはじまる電話番号からは
03-3576-5811へ

🌐 インターネット 📧 郵便 でもお申し込み頂けます!

株式会社高橋剛商会 〒170-0002 東京都豊島区巢鴨 2-16-4 <http://www.balance-alpha.com/jp/>

バランスアルファ ペット通信

第15号

ペットの体調をととのえる



今月のテーマ

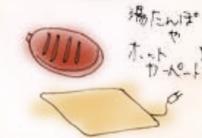
冬に気をつけたいペットの健康管理

紅葉のうつくしい秋が終わり、日に日に寒さが身にしみる季節となりました。12月からは気温がさらに下がり、本格的な冬が始まります。寒い冬は人間もペットも免疫力が下がり、風邪や感染症にかかりやすい季節。ペットは体を被毛で覆われている為、寒さを感じているのかどうか、私たち人間はよくわからないことがあります。ブルブルと体を震わせるだけでなく、体を小さく丸めたり、あまり動きたがらなかったり、いつもよりお水を飲みたがらなかったりしたら、それはペットが寒さを感じている一つのサインかもしれません。私たち人間は衣服を着たり、暖房をつけたりと寒さに自分で対処することができますが、ペットは自分で対処したり、私たちに寒さを訴えることができません。冬の間はペットが寒さを感じていないか、よく見て、よく触ってあげましょう。今回は、ペットが元気で快適に冬を過ごせるように気をつけたいポイントをご紹介します。寒さに負けずにペットと一緒に楽しい冬を過ごしましょう。

ペットの特性に合わせて、室温調節を

犬は寒さに弱い犬種、強い犬種と様々です。寒さに特に弱い犬は、短毛種、シングルコート、小型犬、体温調節がうまくできない子犬、病氣や高齢の犬、室内飼育犬。寒さに強い犬種であっても、咳や鼻水などの風邪の症状や心臓病の悪化などは冬の寒い時期に非常に多いものです。室外犬の場合はハウスをなるべく日当たりの良い場所や風の当たらない場所に移動する、寝床に毛布を敷く、ハウスに隙間がある場合には隙間を塞ぐなどして、できるだけ暖かくすごせるように工夫しましょう。寒さに強い犬種だとしても、寒い日が続くと体調を崩しやすくなります。1日中は難しくても、夜間や寒さが厳しい日はできるだけ室内に入れてあげましょう。室内犬の場合は、家の中とはいえ暖房を切るとかなり冷え込むので、室外犬と同様、ベッドに毛布を敷いたり、保温性のあるマットなどを敷くと安心です。散歩は朝晩の冷え込む時間帯を避け、できるだけ暖かい時間帯にでかけるようにしましょう。冷たい雨や雪の降る日の散歩は、飼い主さんもペットも無理をせず短い時間で済ませましょう。室内と外気の極端な温度差は身体に大きな負担となります。普段は服を着せなくても大丈夫ですが、散歩の時だけでも犬に服を着せたり靴を履かせたりするなどして温度差対策・寒さ対策をしてあげましょう。特に高齢犬や心臓疾患の持病を持つ犬は要注意。寒い日は無理をせず散歩をお休みしてもよいでしょう。

猫の祖先は北アフリカのリビア砂漠出身と言われていて、猫は寒さに弱いので冬の間は暖かい場所を好み、あまり外へは出たがらなくなります。寒さにさらされなければ、問題が起こることはありません。猫は日光浴が大好き。冬場は特に日の当たりやすい場所にベッドを置いてあげましょう。ただし午前と午後では日の差す方向が変わってきますのでできればその両方にベッドを置いてあげると良いですね。その際、隙間風や冷気などが伝わりやすい窓際や、外に接している壁は避けましょう。また、直接床にベッドを置くのではなく、少し高い位置に置いてあげた方が猫は暖かく過ごすごうことができます。寒さが厳しい時は、湯たんぼやペット用のホットカーペットを利用してよいでしょう。



暖房器具のトラブルに気をつけましょう

最近ではペットを室内飼育する家庭が増えました。それにとともにペットも人間と同様に暖房器具がある環境で過ごすことが増えています。寒がりのペットは、暖房器具の前を動かこうとせず、暖房器具のギリギリまで近づいてしまうことがよくあります。それによってヒゲや被毛が焼けてしまったり、皮膚にやけどを負ってしまう事故が意外と多いようです。ペットが暖房器具に近づきすぎたり、長時間暖房に当たったりしていないか常に注意しましょう。できればチャイルドガードなどの柵を設置して、ペットが接近できないようにすれば、飼い主さんもペットも安心ですね。また、暖房器具が増える冬は、こたつや電気カーペットなどの電気家具のコードをかじってしまい感電や火事になる危険もあります。コードをまとめたり、ペットに触れられないようにしたりするなど十分気を付けましょう。特にやんちゃ盛りの子犬や子猫がいる家庭は注意が必要です。ペットの寒さ対策とともに室内の安全確保にも気を配りましょう。

肥満にご用心

寒くなる動物は皮下脂肪を蓄えて冬に備えようとします。寒さでじっとしていることが増えると運動不足から肥満になることも。肥満によって心臓病、関節疾患、糖尿病などの様々な生活習慣病にかかりやすくなります。外で飼っているペットは少し太らせて寒さに抵抗力をつける必要がありますが、室内飼育の場合は、肥満にならないようにフードの量と質に気を付けてください。ペットの体調管理とともに、体重の管理も心がけましょう。外で遊ばせることが難しい場合は、室内で体を動かせるよう積極的に遊んであげると運動不足の予防やストレス解消にもいいですね。

乾燥に注意

冬の間は室内の空気が乾燥しがちです。空気が乾燥すると人間同様ペットも呼吸器の粘膜のバリア機能が低下し、細菌やウイルスに感染しやすくなります。加湿器をつける、定期的な換気をする、濡らした洗濯物やタオルを部屋干しにするなどして、湿度は50～60%くらいを保てるようにしましょう。また、飲みたい時にすぐ飲めるように飲み水を切らさないようにしましょう。

免疫力を高めよう

冬は気温の低下や空気の乾燥によりウイルスが繁殖しやすく、また寒さで体温が下がると体の免疫力も低下しがちです。ペットも体調を崩しやすく感染症のリスクが高まるので、ワクチン接種を忘れずに受けておきましょう。また普段から健康に気を付けて、十分な睡眠と栄養を取り、適度に運動をさせ、ストレスをためないよう元気な体作りを心がけましょう。風邪予防にバランスアルファも忘れずに飲ませてあげてくださいね。

年末は何かと忙しくなり、飼い主さんもペットも体調を崩しやすくなります。元気に新しい年を迎えられるよう、寒さが本格化する前から体調を整えておきましょう！発酵飲料の最高峰『バランスアルファ』を、愛しいペットたちの健康管理にお役立てください。



東京都多摩市にあるこうご動物病院。西洋医学をベースに、鍼治療・漢方などの東洋医学やホリスティック医療を積極的に取り入れた独自の治療を行い、病氣になってしまったペットでも最善の状態でも過ごせるよう、様々な治療法を提案されています。

「命」に寄り添う

～こうご動物病院の取り組みから～

第3回 命を育む食

*手作り食の指導

最近増えている病気の傾向はありますか？

向後先生 人間と同じくペットも高齢化しているのもあるのですが、ガン・生活習慣病・糖尿病が多いということを感じています。人間もそうですが、食べ物など普段摂っているものが悪さしているんじゃないかと思います。飼い主さんには、「ペットフードも色々あるので、食べ物もこだわった方がいいですよ」と話すこともあります。

先生はペットの食事指導もされているんですね。

向後先生 はい、まずペットフードなのか手作り食なのか。確かに手作り食の方が自分で素材を選ぶことができるので間違いはないです。ただ、すべての方が手作りできるわけではないですね。作る時間や、栄養、カロリーの管理もあるので、うちでは良いペットフードを選んだ上でトッピングの指導をします。完全手作り食をされている方には、うちで作っているリーフレットをお渡ししています。

これは飼い主さんがその気にならないとなかなか難しそうですね。

向後先生 そうですね。ペットフードもピンからキリまでありますし、ペットフードの規制はあっていないようなものなので…。飼い主さんもネットで調べてもう何を信じたらよいのかわからなくなってしまっていることも多いです。今、うちのペットフードに詳しい看護師が、ペットフードのカウンセリングを1時間単位でしっかりやっています。お話をきちんと聞いた上で、そのペットに合ったフードを紹介することもやっています。

先生も食事がとても大好きなようです(笑)

向後先生 はい(笑)。私も昨年末、デトックスの為にファスティング(断食)をやったんですけど、そうしたら体調がとても良くなったんです。胃腸を整えることは本当に大事なんだと実感して、ペットもきっと同じなんじゃないかなと。私は慢性的に胃腸が弱いのですが、それが良くなったり、メンタル面が変わったりしたので、健康の源は腸なんだと今すごく感じています。



院内では、ペット用のおやつも販売しています。どれも身体にやさしい安心な素材で作られています。

*バランスアルファを利用するケース

犬と猫でどちらの来院が多いですか？

向後先生 圧倒的にワンちゃんの方が多いのですが、昔と比べると猫ちゃんもだいぶ増えてきています。犬と猫で別の診察口を設けていることもあるのかもしれませんが。

バランスアルファはどのように使っているのですか？

向後先生 猫ちゃんの場合、猫ちゃん用のサプリメントや健康食品があったとしても、錠剤だったりして、飲ませられないものが多いんです。その点バランスアルファは液体でとても飲ませやすく、飼い主さんも受け入れやすいのだと思います。私の飼っていた猫が腎不全の末期の時に知人から「すごく良いし、飲ませやすいから」とすすめられたのですが、バランスアルファは猫ちゃんでも結構飲みやすいという気がしますね。

猫ちゃんの場合、そもそも摂取できるかどうか大きなハードルなんですね。

向後先生 そうなんです。どんなに良いものでも猫ちゃんが嫌がってしまうと、それを飲ませるのは飼い主さんにとってもストレスになってしまうので。バランスアルファは腎不全、ガン、アトピーのペットにすすめています。飲ませやすいのでリピートで買っている方が多いですね。

向後先生から見て、バランスアルファは何でしょう？

向後先生 「最後の希望」という時もありますし、「体にとって絶対必要なもので、使って損はないですよ」と飼い主さんにお伝えすることもあります。「もし万が一ペットが飲めなかったとしても飼い主さんご自身が飲めばいいですよ」とおすすめすることもあります(笑)。

実際どんなことで効果を感じられていますか？

向後先生 腎不全や病気で食欲がなくなったペットが、バランスアルファを使うことで食欲を取り戻してくれることがあります。ペットのガンの場合、そのガンによって寿命がある程度分かってしまうのですが、バランスアルファを使うことで、良い状態を長引かせてくれる気がします。

こうご動物病院附属TAMA統合医療センターの「抗がん剤を使わない動物のがん治療」のホームページで「バランスアルファ」が紹介されています。